



2024年10月11日

各 位

会 社 名 株式会社ジー・スリーホールディングス  
代表者名 代表取締役常務 山之内 督宗  
(コード番号：3647 東証スタンダード市場)  
問合せ先 管理本部経営管理部長 高橋 龍馬  
(電話：03-5781-2522)

## 棚卸資産評価損（売上原価）の計上及び固定資産の減損による特別損失の計上 並びに2024年8月期実績と前期実績値の差異に関するお知らせ

当社は、本日開催された取締役会におきまして、2024年8月期個別決算における販売用不動産及び2024年8月期連結決算における子会社が保有する商品在庫について棚卸資産評価損の計上を行うこと、並びに2024年8月期第4四半期連結会計期間において固定資産の減損による特別損失の計上を行うことを決定いたしました。その結果、2024年8月期実績と前期実績値の差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 棚卸資産評価損の計上

当社は、販売用不動産として保有する太陽光発電所について、2024年8月期における売上計上を目指し販売活動を進めていたところ、当初、売却を想定していた売却候補先との交渉が不調となり、複数の他売却候補先との交渉を進めてまいりましたが、運用コストの上昇、法改正などによる市場・事業環境の変化等により、当事業年度の売却が実現しなかったため、第三者機関による鑑定評価のうえ、市場価値を再算出した結果、2024年8月期の個別決算において、棚卸資産評価損324,002千円を売上原価に計上いたしました。

また、子会社である株式会社ジー・スリーファクトリーが進める基礎化粧品仕入販売事業において、販売期限切れが見込まれる商品在庫について、2024年8月期の連結決算において棚卸資産評価損1,845千円を売上原価に計上しております。

#### 2. 特別損失の計上

当社グループは、2期連続営業損失であり、営業キャッシュ・フローが継続してマイナスである状況から、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき将来の回収可能性を検討し、その結果、当社が保有する固定資産の一部について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、太陽光発電所の機械装置及び土地26,205千円、子会社ののれん15,921千円、本社の共用資産25,953千円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

3. 通期連結業績と前期実績との差異（2023年9月1日～2024年8月31日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績（A）	百万円 1,187	百万円 △255	百万円 △269	百万円 △488	円 銭 △28.98
当期実績（B）	259	△666	△680	△742	△42.24
増減額（B－A）	△928	△255	△269	△488	
増減率（％）	△78.2	－	－	－	

4. 通期個別業績と前期実績との差異（2023年9月1日～2024年8月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績（A）	百万円 976	百万円 △236	百万円 △242	百万円 △386	円 銭 △22.93
当期実績（B）	174	△676	△684	△752	△42.79
増減額（B－A）	△801	△440	△442	△366	
増減率（％）	△82.1	－	－	－	

5. 差異の理由

個別業績に関しましては、当社が販売用不動産として保有する太陽光発電所3物件について、当初、2024年8月期における売上計上を目指し販売活動を進めておりましたが、当初想定していた売却候補先との交渉が不調に終わり、他売却候補先との交渉において見込んでいた売却額まで届かなかったため、最終的に売却は実現せず、売上が低迷したことが主な要因です。決算において販売用不動産として評価損の計上したことで、損失幅が拡大し、差異が生じたものであります。

連結業績に関しましては、主に個別業績における差異及び特別損失の計上のほか、早期の新事業の確立が実現できなかったこと、ジー・スリーファクトリーが進める基礎化粧品仕入販売事業において、新商品は投入したものの、化粧品販売の減少をカバーするには至らなかったことによるものであります。

以 上